



# 目次

## 【要約】

テーマ設定の理由	1
目ざす生徒像	1
研究の目標	1
研究仮説	2
1 基本仮説	
2 作業仮説	
研究構想図	2
研究内容	3
1 生徒の興味関心を高める題材の開発	
(1) 作品選択	
(2) 焼成方法の工夫	
(3) 制作の手引き・ワークシート	
(4) 評価基準	
授業実践	7
1 領域	表現
2 単元名	工芸
3 教材名	土と炎が生み出すかたち
4 単元目標	
5 単元について	
6 全体計画	
7 指導の実際	
研究の考察	15
研究の成果と課題	17
1 研究の成果	
2 今後の課題	

## 【おわりに】

## 【主な引用・参考文献】

# 生徒が意欲的に活動する美術の授業の工夫

～ 生徒の興味関心を高める題材の開発と  
制作の手引きを活用した指導を通して～

浦添市立神森中学校 大城えり子

## 【要約】

本研究は「やきもの」の学習を通して意欲的に楽しく美術の授業に参加する生徒を目指した授業の工夫を試みたものである。

授業実践では、粘土の基礎技法をふまえたうえで、生徒の興味関心を高める題材の開発と焼成の工夫を行った。また、実習の手引きやワークシートの活用によって、生徒が自主的に制作活動を行い美術の授業に意欲的に楽しく参加した。

### キーワード

題材開発

意欲を高める

作品選択

焼成

ワークシートの活用

### テーマ設定理由

学習指導要領では、美術科の目標は「表現および鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てると共に、感性を豊かにし、美術の基礎的能力を伸ばし豊かな情操を養う」とされている。しかし、これまでの美術科の授業は、上手な絵が描けるようになることや巧くデザインができるようになること、あるいは素晴らしい工芸作品をつくることなど、作品を制作すること自体が目的とされる傾向があった。

これまでの私自身の授業も、作品の完成に重みを置き、技法の習得させること等、教師の好みにあう作品の制作に仕向けていた。そのため、生徒は自分の思いの実現のために積極的に取り組む授業ではなく、受け身的な学習形態であった。その結果、生徒は手が汚れる、作品制作が面倒くさいなどの理由から美術の授業に積極的、意欲的に取り組まなくなった。

このような課題を解決するために、粘土題材をとりあげた。粘土教材は「1.幼児の頃から（親しみのある）粘土遊びをし、取り扱いには、慣れている。」「2.作品を自由に創作（作成）することが

でき、生徒のイメージの世界が無限に広がること。」「3.失敗しても、修正が比較的簡単であること。」の3つの利点があげられる。

欠点は、作品を完成させても、作品が簡単に壊れたり又、作品の保管が難しく、持ち帰らない生徒が多い。そこで、生徒自身で焼成過程まで行うことによって、生徒は自分の作品に愛着をもつことができるのではないかと考える。

しかし、粘土題材は作品の工程が複雑で、制作から焼成までを取り上げる教師は少なく、特に、焼成は他人任せである。

そこで、生徒が自身の興味関心の高い題材の開発と手軽にできる焼成方法を工夫すれば、生徒は興味関心を持ち、意欲的、積極的に授業に取り組むのではないかと考えこのテーマを設定した。

### 目指す生徒像

「やきもの」の授業に意欲的に楽しく参加する生徒

### 研究目標

「やきもの」の授業に意欲的に取り組む生徒を育成するために、成形から焼成まで行う題材の開発し、生徒が自主的に進める授業を実践的に研究

する。

選択させれば，作品に愛着を持ち，制作に意欲的に取り組むであろう。

### 研究の仮説

#### 1 基本仮説

「やきもの」の授業で，生徒の関心が高い題材を開発し指導方法を工夫すれば作品に愛着をもち意欲的に活動するであろう。

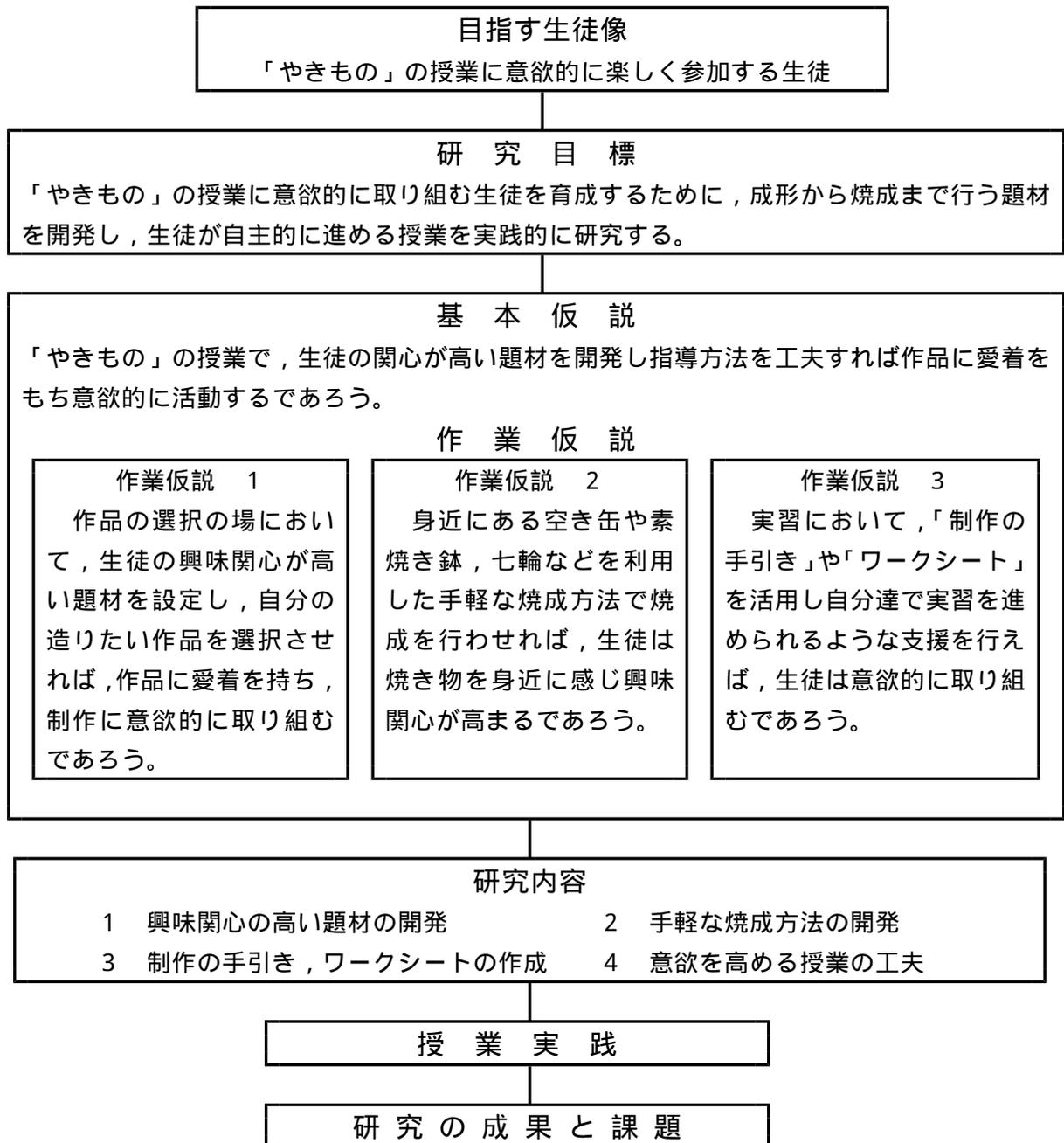
#### 2 作業仮説

- (1) 作品の選択の場に置いて，生徒の興味関心が高い題材を設定し，自分の造りたい作品を

- (2) 身近にある空き缶や素焼き鉢，七輪などを利用した手軽な焼成方法で焼成を行わせれば，生徒は焼き物を身近に感じ興味関心が高まるであろう。

- (3) 実習において，「制作の手引き」や「ワークシート」を活用し自分達で実習を進められるような支援を行えば，生徒は意欲的に取り組むであろう。

### 研究構想図



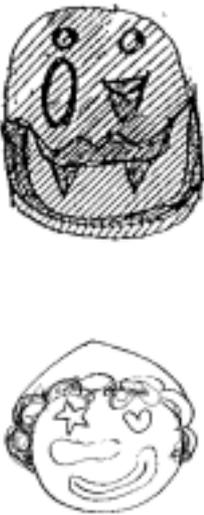
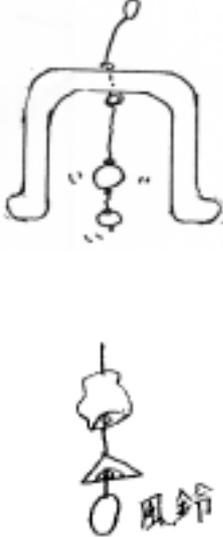
，研究内容

1 生徒の興味関心を高める題材の開発

生徒の制作意欲を高めるために、題材を生徒の興味関心が高く焼き物の基礎的技法を使い作成できる作品を選定し、焼成までの一連の工程を行わせる。

(1) 作品選択

焼き物の基礎的技法（棒練り，手びねり，ひも作り，輪積み，板づくり，くり抜き，二つ割り，心作り，線彫り，型押し，貼り付け，削り取り）で出来る土鈴，風鈴，面の中から選択させる。

面	風鈴	土鈴
		

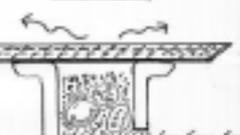
(2) 焼成方法の工夫

これまでの焼成は、教師が工芸用電気窯で一斉に行っていたため生徒自身が焼成工程を体験することできず、「やきもの」に対する興味関心が低かった。身近にある「素焼き鉢」「空き缶」「レンガ」「七輪」などを利用して手軽に焼成出来る方法を工夫した。この中から自分の好きな方法を選択し焼成させることにより、やきものへの興味関心を高める。

			
七輪	レンガ	素焼き鉢	空き缶

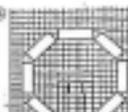
### 七輪を使った窯

#### 七輪を使った窯

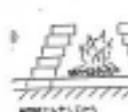
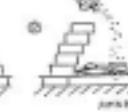
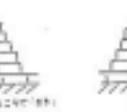
- ① 七輪の底に金具の両面をおく 
- ② 着火剤を使って木炭に着火する  
換気口は、空気を調整のためあけておく。うちわであおぐと火が強まる 
- ③ 木炭の火がおさまってからもみぎらを少しずついれる 
- ④ もみぎらを半分乾いたら作品を置いて隠すくらいにもみぎらをいれる 
- ⑤ 換気口は煙の状態を見て閉鎖したりする。煙がでていれば焼成中です。開をかぶせます。 

### レンガを使った窯

窯づくりの手順

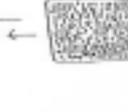
- ①  ②   
レンガ、30センチ、14センチ×9センチのレンガ
- ③  ④   
レンガ、30センチ×20センチ×10センチ、20センチ×10センチ×10センチ

焼成の手順

- ①  ②  ③   
乾燥したレンガ、20センチ×10センチ×10センチ、20センチ×10センチ×10センチ、レンガ、30センチ×20センチ×10センチ、レンガ、30センチ×20センチ×10センチ
- ④  ⑤   
レンガ、30センチ×20センチ×10センチ、レンガ、30センチ×20センチ×10センチ

### 植木鉢を使った窯

#### 植木鉢を使った窯

- ① アクリルボードで植木鉢を包み込む  
※熱がにげないため 
- ② 木炭は、着火剤を使ってから木炭の土の上に置く 
- ③ さらに、作品の上にもみぎらをおく 
- ④ 煙がでていれば火が燃えています 
- ⑤ もみぎらを3割いたあと、着火剤の煙が空気にサラサラと出るとアクリルボードにしみこませ、再び着火する。うちわであおぐとよい。あおがすぎると、灰や煙がたまるので危険です。 
- ⑥ 熱がにげないようにアクリルボードでまいた植木鉢を蓋ふしておく。 

### 空き缶を使った窯

#### 空き缶を使った窯

- ① 空気の通り道がよいように、ハンマーと釘を使って全体的に穴をあけておく。 
- ② 着火剤と炭ボール紙を使って着火 
- ③ もみぎらを約三分の一いれる。 
- ④ 作品をもみぎらにおいていく 
- ⑤ 作品を3割いてあと、もみぎらをかきける 

(3) 制作の手引き・ワークシート活用

「やきものは」工程が複雑なため、生徒は制作途中で失敗し意欲を失うことが多い。授業内容の定着と自ら実習を進めさせるために制作の手引きとワークシートを作成する。

制作の手引き

ア 面の作り方

土で作る

作品名	品 種 ( 類別 )	材料
面・土甕	年 組 専 用 器	



内へ手で粘土の壁をつくる。  
厚さは、3～4mm程度。

粘土が乾いたら、中心を絞って壁が厚くなるように、内側に向けて粘土を押し出す。

内側の厚さを均しくする。壁の厚さを、指先で確かめ、調整しなおす。

壁の厚さを均しくする。中心を絞って、粘土の厚さを均しくする。

イ 風鈴の作り方

土で作る

作品名	品 種 ( 類別 )	材料
風鈴	年 組 専 用 器	



筒形の粘土を成形（厚紙）を巻く  
（筒の厚さは、2～3mm程度）

口をつけて作る。  
・粘土を筒の内側から押し出す。  
・口の部分の厚さを均しくする。

口をつけて作る。  
・口の部分の厚さを均しくする。

口をつけて作る。  
・筒の厚さを均しくする。  
・口の部分の厚さを均しくする。

口をつけて作る。  
・筒の厚さを均しくする。  
・口の部分の厚さを均しくする。

口をつけて作る。  
・筒の厚さを均しくする。  
・口の部分の厚さを均しくする。

ワークシート

美術カード2	題材名	学習期間	学習領域																																																															
	土と炎がうみだすかたち	2004年 ～	絵 画	彫 刻	工 芸	デザ イン	複 合																																																											
月 日 ( 曜日 ) 校時 年 組 番																																																																		
1. 成形の具体的学習内容について答えなさい。 何を制作しますか？ (土鈴・風鈴・面・土甕) (興味・関心・意欲)																																																																		
おおまかな形はどのようなものですか？絵を描いて下さい。(発想)																																																																		
<table border="1"> <tr> <td>観点別</td> <td>この題材における観点</td> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>総合</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">自己評価</td> <td>関心・意欲・態度</td> <td colspan="4">題材の内容を理解し、進んで学習したか。</td> </tr> <tr> <td>発想・構想の能力</td> <td colspan="4">作品制作に意欲的にとりくめたか。準備・片付け・提出</td> </tr> <tr> <td>創造的な能力・技能</td> <td colspan="4">作品の構想を練る(イメージをもつ)とができたか</td> </tr> <tr> <td>鑑賞力</td> <td colspan="4">オリジナルな作品制作ができたか。</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="4">材料、道具をうまく使いこなし、制作することができたか。</td> </tr> <tr> <td colspan="7">この学習で学んだことは何だろうか？</td> </tr> <tr> <td colspan="7">先生からのコメント</td> </tr> <tr> <td colspan="7">友達からのコメント</td> </tr> <tr> <td colspan="7">* A できた B だいたいできた C できない * 総合(先生でABCをつけます)</td> </tr> </table>							観点別	この題材における観点	A	B	C	総合	自己評価	関心・意欲・態度	題材の内容を理解し、進んで学習したか。				発想・構想の能力	作品制作に意欲的にとりくめたか。準備・片付け・提出				創造的な能力・技能	作品の構想を練る(イメージをもつ)とができたか				鑑賞力	オリジナルな作品制作ができたか。					材料、道具をうまく使いこなし、制作することができたか。				この学習で学んだことは何だろうか？							先生からのコメント							友達からのコメント							* A できた B だいたいできた C できない * 総合(先生でABCをつけます)						
観点別	この題材における観点	A	B	C	総合																																																													
自己評価	関心・意欲・態度	題材の内容を理解し、進んで学習したか。																																																																
	発想・構想の能力	作品制作に意欲的にとりくめたか。準備・片付け・提出																																																																
	創造的な能力・技能	作品の構想を練る(イメージをもつ)とができたか																																																																
	鑑賞力	オリジナルな作品制作ができたか。																																																																
		材料、道具をうまく使いこなし、制作することができたか。																																																																
この学習で学んだことは何だろうか？																																																																		
先生からのコメント																																																																		
友達からのコメント																																																																		
* A できた B だいたいできた C できない * 総合(先生でABCをつけます)																																																																		

(4) 評価基準

焼き物のよさや陶芸作品に関心をもつとともに計画にそって最後まで根気強く制作に取り組もうとする。(関心・意欲・態度)

土に触れ、その感触を確かめながら、それをもとに、形、構成やテクスチャの活用など豊かに構想できたか。(発想や構想の能力)

焼き物の制作工程(成形・加飾・乾燥・素焼き・施釉・本焼き)を理解し自分のイメージにあう作品を工夫してつくることのできる。(創造的な技能)

友達の作品を評価したり、自分の表現を振り返ったりできたか。(鑑賞の能力)

評価観点	評価基準		評価基準
	概ね満足できる(基準B)	十分満足できる(基準A)	土鈴・風鈴・面
美術への関心・意欲・態度	粘土の感触や、造形上の効果を味わい、成形、焼成の楽しさを味わおうとすることができる。	粘土の感触や造形上の効果を味わい、成形、焼成の楽しさを味わおうとするとともに、正しい知識を身につけようとするところができる。	材料や用具への関心が高い。準備や片付けがきちんとしている。アイデアスケッチを描き構想をねろうとしている。構想のための資料収集。うつくしいものやよいものを尊重する態度をもっている。粘り強く制作し完成させた。
発想や構想の能力	材料からの発想をもとに色や形、構成やテクスチャの活用など豊かに構想できる。	用と美の調和を考え、素材感をもとに使う人の立場に立ったデザインを発想し、色や形、構成やテクスチャの活用など豊かに構想できる。	条件や意図を生かして制作の計画をたてることのできる。材料を生かした制作の計画をたてることのできる。機能と美との調和のとれたデザインの構想を練ることのできる。構想をアイデアスケッチであらわすことのできる。制作手順を考えてつくることのできる。
創造的な技能	成形、乾燥、焼成のプロセスを理解し、表現上の特徴を把握して楽しく制作することができる。	用と美の調和を考え、色や形、構成やテクスチャを制作主題に取り組みながら、焼き物の制作過程のよさを理解し、作り上げることができる	土の可塑性や特性を生かして作品をつくることのできる。機能と美との調和を考えて作品を作ることのできる。丁寧に制作し美しく仕上げることのできる。正しく用具をつくることのできる。
鑑賞の能力	粘土のもつ感触や造形上の効果を感じ取ることができるとともに、他の作品のよさを味わうことができる。	粘土の持つ感触からその豊かな造形性を味わい、用と美の調和を感じ取ることが出来ると共に、他の作品のよさを共有することができる。	自分や他者の制作した作品のよさを感じ取ることが出来る。材料のよさや性質がわかる。

## 授業実践

1 領域・・・表現

2 単元名・・・工芸

3 教材名・・・土と炎が生み出すかたち

4 単元目標

- ・粘土の感触や造形上の効果を味わい，成形，焼成を楽しむ。(関心，意欲，態度，)
- ・成形，乾燥，焼成のプロセスを理解し，表現上の特徴を把握する。(発想，構想)
- ・用と美の調和を考え，形，構成やテクスチャなどを工夫する。(創造的技能)
- ・制作したお互いの作品の良さを認め合う(鑑賞)

5 単元について

(1) 教材観(やきもの)

粘土は適量の水を加えると練り土になり，さらにたくさんの水を加えると泥になります。練り土も泥も乾くと，縮んで硬くなって固まる性質をもっています。その性質を利用して，焼き物が作られます。焼き物とは，粘土または石の粉を練って形を作り，火の熱で焼き上げた器(うつわ)や作品のことです。焼き物は他の材料による造形とは異なって粘土 成形 乾燥 焼成の4つの関連による手作りの喜びを味わえるものです。

焼き物は，焼成することによって素材の性質が変化し，肌触りや視覚的变化がおこるため，生徒にとって魅力的な材料であるといえるのではないだろうか。

(2) 生徒観

小学校において，焼き物指導は，生徒は作る，先生は焼くという分業システムであった。作者である子供が知らないうちに自分の作品が窯の中に入れられ，火の色の変化とともに作品の体質も変わっていく姿も知らず，焼く興奮や感激にも浸ることなく，窯からだされるといった具合である。

(3) 指導観

意欲的，積極的に授業に取り組みさせるために，基礎的技法をふまえた土鈴，風鈴，面の中から選択をさせ，焼成工程も身近にある素焼き鉢，七輪，空き缶，レンガの組み立て式窯の中から生徒自身の興味に応じて選択させる。

6 全体計画(8時間)

(1) 土の特徴を考えよう(第1時・第2時)

学習活動		教師の支援と評価	
1	「オリエンテーション」  美術資料の読み合わせ (粘土の話し)	<オリエンテーションのねらい> 身のまわりから土でできている物を探し，その特徴を考えよう。	
1， 2	「アイディアスケッチを描こう」 アイディアスケッチをする	アイディアスケッチについての説明内容 成功作品，失敗作品をみせる。	・アイディア(下描き)が直接，作品制作(焼成)につながるかどうか。

美術 カード1	題材名	学習期間	学習領域			
	土と糸がうみ たすかたち	2004年 ~	絵 画	彫 刻	工 芸	デザ イン 複 合
月 日 (曜日) 校時 年 組 番 名前						
1, 粘土の特性について答えなさい。(資料・粘土の話を読んで) (関心)						
<div style="border: 1px dashed black; height: 40px; width: 100%;"></div>						
3, アイディアスケッチを描きなさい。(発想)						
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>風飾</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>土飾</p> </div> </div>						
	観点別	この題材における観点	A	B	C	総合
自己 評 価	関心・意欲・ 態度	粘土の特性について進んで学習したか 作品制作に意欲的にとりくめたか。				
	発想・構想の 能力	作品の構想を練ることができたか。 題材を理解しアイディアスケッチできたか。				
	創造的な能力 技能	美術資料などを参考にしてアイディアスケッチ できたか。 自分なりに工夫して表現することができたか。				
	鑑賞能力	自分や他人の作品の良さを味わうことができたか。				
	この学習で何を学んだかな?					
先生からのコメント						
友達からのコメント						
* A できた B だいたいできた C できない *総合(先生でABC)						

オリエンテーション

美術資料の読み合わせ  
粘土の特徴・・・

粘土で作りたいものを  
アイディアスケッチしよう。

自己評価 ABC で記入

友達、先生からのコメントを  
もらうことで、次の2時間目の  
授業の目標につなげることが  
できたらいいのではないかと考え  
ます。

(2) 粘土遊びをしよう(第3時)

	学習活動	教師の支援と評価																																
土 ・ 粘 土 を 扱 う ポ イ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実際の粘土にふれ、粘土遊びをする。</li> <li>・ 棒練り (両方の手の平ですりあわせ、二つ折りにして何度かくりかえす)</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今回 少量の粘土を使用するので棒練りだけをさせる。</li> <li>・ 手は水で湿らせたほうが粘土を練りやすい。 (長さ比べをして、グループ競争をさせる)</li> <li>・ 粘土の肉厚を平均にしながら、形を整えさせる。</li> </ul> <table border="1" style="float: right;"> <tr> <td colspan="4">A できた</td> </tr> <tr> <td colspan="4">B 大体できた</td> </tr> <tr> <td colspan="4">C できない</td> </tr> <tr> <td>技法</td> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>棒ねり</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>てびねり</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ひもづくり</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>輪積み</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	A できた				B 大体できた				C できない				技法	A	B	C	棒ねり				てびねり				ひもづくり				輪積み			
A できた																																		
B 大体できた																																		
C できない																																		
技法	A	B	C																															
棒ねり																																		
てびねり																																		
ひもづくり																																		
輪積み																																		

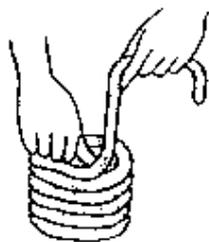
ン  
ト

・手びねり  
(よく練った粘土を、指や手で形をつくっていく)

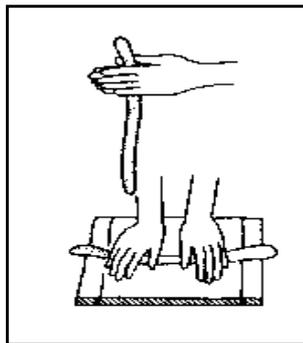


・ひもづくり  
(両方の手の平で粘土をより合わせて棒状にし、それを板の上のせて両手で軽く転がす)

・輪積み作り  
(ひも状に伸ばしたものを、ドーナツの様な輪を作っては上にのせ高く積み上げる)



・粘土の表面が乾いてきたら水でぬらしたふきんや指で直させる。



・積み上げたひもとひもの継ぎ目を、指先で完全に消すようにしてつみあげさせる。継ぎ目は空気の入らないように、丁寧に押しつけて接合させる

・ドーナツの高さ比べをさせる。

板づくり			
くり抜き			
二つ割り			
心作り			
型おこし			
線彫り			
型おし			
はりつけ			
削り取り			

高さ比べをさせる  
(粘土に親しませる)  
グループ評価点  
(6グループとして)

- 1位(A)
- 2位(A)
- 3位(B)
- 4位(B)
- 5位(C)
- 6位(C)

技  
法  
名  
を  
覚  
え  
よ  
う

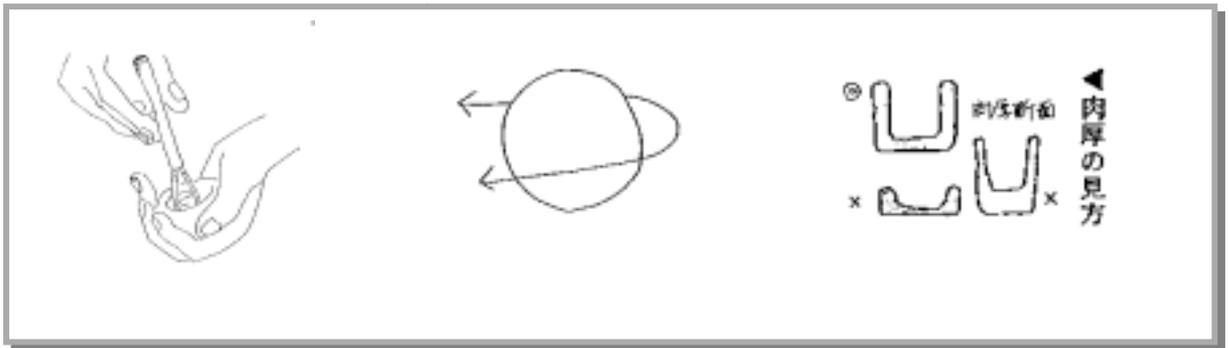
・板づくり  
(粘土を板状にして、必要な大きさの粘土を接合する。)

・指や手のひら、握り拳などで粘土の塊を板状にさせる。厚さを平均にさせる。のし棒で塊を平らにする。厚さ定規と切り糸で、同じ厚さで粘土の塊を板状に切りとらせる。



・くり抜き ・二つ割り  
(必要な粘土の塊を切り糸で二つに切断する。次にそれぞれの内側を、かきとりべらでくり抜く。くり抜いたあと、接合(どべ)させ、元通りの形にする。

・切り糸は、細いほどきりやすい。釣り糸や細い針金もよくきれる。けがに注意。



・心作り  
 (作り物の心に、最初から紙などを入れて、作品を作り上げる。乾燥 焼成(心は燃える))



・くり抜き作りとの違いの説明

・心材の膨張や収縮を考えて粘土が乾燥途中にひび割れしないような心材料を考えなければならない。

(説明)

・心材を入れたまま。粘土で包み込んでしまうので空気穴をあけて置く必要がある。焼成段階で爆発する恐れがあるので注意させる。

・加飾の方法

身の周りにあるものでも加飾できることを理解させる。



・線彫り

・型おし

・削り取り

・はりつけ(どべを使う)

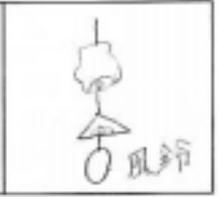
へら、かきとりべらなどを使う

参考作品

- ・つまようじをつかってもよい
- ・鉛筆の頭などを使っても型押しできる。学用品などを利用させる。
- ・どべは、筆の代わりに指でなぞってもよい。

(3) 作品制作の決定をしよう (第4時)

学習活動	教師の支援と評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 美術カード2の記入</li> <li>・ 作品制作のアイデアスケッチをする。</li> </ul>	<p>基礎技法をふまえた作品決定をさせる。</p>

美術 カード2	題材名 土と炎がうみだすかたち	学習期間 2004年 -	学習領域 絵画 彫刻 工芸 デザイン 複合			
月 日 (曜日) 校時 年						
1. 成形の具体的学習内容について答えなさい。 何を制作しますか? (土鈴・風鈴・面・土笛)						
おおまかな形はどのようなものですか? 絵を描いて下さい。 (宛紙)						
						
観点別	この題材について					
関心・意欲・態度	題材の内容を理解し、進んで学習したか。					
自己発想・構想の能力	作品制作に意欲的にとりくめたか。					
発想・構想の能力	作品の構想を練る(イメージをもつ)できたか。					
オリジナルな作品制作ができたか。						
創造的な能力・技能	材料、道具をうまく使いこなし、制作することができたか。					
自分なりに工夫して表現することができたか。						
鑑賞力	自分や他人の作品の良さを味わうことができたか。					
この学習で学んだことは何だろう?						
先生からのコメント						
友達からのコメント						
* A できた B だいたいできた C できない * 総合(先生でABCをつけます)						

粘土は、自由自在に形が作れることがわかった。

粘土の基礎技法を考えながら、アイデアスケッチをしていきます。

おもしろい  
アイデアがいろいろ  
土笛に音階  
がつくのが近いかな  
発想が  
きばつ

時間	学 習 活 動	教師の支援と評価																	
第 5 ・ 6 時	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">(4) 作品制作</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アイディアスケッチを基に作品制作をする。</li> <li>・ 土鈴 ( 鈴口・ひも通しの穴・切る彫る・接合・どべ )</li> <li>・ 面 ( 接合・どべ・型押し・削る穴開け )</li> <li>・ 風鈴 ( 形の決定・くり抜く・ひも通しの穴・おもり・型押し )</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 粘土作品制作の基礎をふまえたうえで作品制作しているか。</li> <li>・ 全体の形は自由にさせる。</li> <li>・ 粘土による発想を大事にさせる。</li> <li>・ 正しい技法をとりいれているか。</li> </ul>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">A できる B 少しできる C できない ( A B C 記入 )</td> </tr> <tr> <td style="width: 80%;">鈴口</td> <td style="width: 20%;"></td> </tr> <tr> <td>穴</td> <td></td> </tr> <tr> <td>どべ ( 接合 )</td> <td></td> </tr> <tr> <td>型押し</td> <td></td> </tr> <tr> <td>くり抜く</td> <td></td> </tr> <tr> <td>切る ( 二つ割り )</td> <td></td> </tr> <tr> <td>削る</td> <td></td> </tr> </table>	A できる B 少しできる C できない ( A B C 記入 )		鈴口		穴		どべ ( 接合 )		型押し		くり抜く		切る ( 二つ割り )		削る	
A できる B 少しできる C できない ( A B C 記入 )																			
鈴口																			
穴																			
どべ ( 接合 )																			
型押し																			
くり抜く																			
切る ( 二つ割り )																			
削る																			
第 7 時	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">(5) 焼成をしよう</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 焼成方法の説明 ( 選択 )</li> <li>・ レンガの窯</li> <li>・ 七輪の窯</li> <li>・ 空き缶の窯</li> <li>・ 植木鉢の窯</li> </ul> 決定後 ・ ・ 窯の組み立て ・ 着火 ・ 燃料入れ ・ 蓋 ・ 焼成 ( 作品取り出しは放課後 ) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観察日誌の記入 ( 給食時間 , 清掃終了後に日誌の記入をする )</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ プリントで説明</li> <li>・ 窯べつにグループわけをして 説明する。</li> <li>・ 協力して窯作りをしたか</li> <li>・ 作品の大きさによって窯を選択。</li> <li>・ 観察日誌の記入の仕方</li> </ul>																	
第 8 時	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">(6) お互いの作品を鑑賞しよう</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鑑賞カードの記入</li> <li>・ 美術アンケートの記入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 展示コーナーの設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分や他者の作品のよさを感じとることができるか</li> </ul>																
<p>*まとめ ( 時間外 ) 校内に展示コーナーを設け , 作者 , 友達の感想などのコメントを添付し , 鑑賞や評価の場の工夫をはかる。</p>																			

7 指導の実際

美術科学習指導案

平成 15 年 12 月 17 日 (水)  
 神森中学校 美術室  
 1 年 6 組 男子 23 名 女子 16 名  
 授業者 大城 えり子

(1) 本時の目標

作業工程を理解し作品制作する。

(2) 授業仮説

粘土の特質をふまえたうえで制作する作品を選択し、注意をしながら制作活動ができるであろう。  
 お互いの作品のよさを認め合うことによって満足感が得られるであろう。

(3) 指導計画

- 作業工程の理解 . . . . . 2 時間
- 制作活動 . . . . . 4 時間 ( 2 / 4 本時 )
- 焼成 ( 窯の設置時間 ) . . . . . 1 時間
- 鑑賞 . . . . . 1 時間

(4) 本時の学習展開

学習の流れ	学習活動	指導上の留意点
導入	お互いの作品のよさの確認	よさを認め合う心 ( 関心 )
展開 ( 35 分 )  * 名前は 目立たな いところ にクラス ・番号を 書く。	成形 ( 作業仮説 1 ) 作品選択 ・土鈴 ( 鈴口・ひも通しの穴, きる・彫る・接合・二つ割り ) ・面 ( 接合・型押し・削り・貫通 ) ・風鈴 ( 形の決定・くり抜く・貫通・ひも・おもり ) アイディアスケッチを基に表現していく 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関心・意欲</li> <li>・鈴の条件である中空にすることを忘れて、極端に長い物や薄いものを考える場合もあるので注意させる。(関心)</li> <li>・鈴口の組み入れさせ方を工夫させる。(構想)</li> <li>・ひも通しの穴の生かし方の工夫 (構想)</li> <li>・切る位置は十分検討させる (構想)</li> </ul> 発想 <ul style="list-style-type: none"> <li>・彫り用具は各自で工夫させる (構想)</li> </ul>

<p>基礎技法</p>	<p>ブルーシートの上に輪になって座る</p>          	<ul style="list-style-type: none"> <li>・接合（どべは確実にさせる） （構想）</li> <li>・二つ割り（適度の固さ，ひびわれがないように練る。内部の掻き出しやすい位置を考え，針金などで分割させる）（構想）</li> <li>・くりぬく（粘土の厚みが均一になるようにかきだす）（構想）</li> <li>・どべは筆を使ってつけさせる。 （構想）</li> <li>・加飾は粘土の固さに応じて工夫させる。（構想）</li> <li>・ヘラ使いの工夫（発想）</li> <li>・型押し（粘土の固さが耳たぶくらいの時，身近な材料を使ってさせる）（発想）</li> <li>・削り（粘土の固さ，乾燥に気をつけさせながら割らないようにさせる）（構想）</li> <li>・面を部分的に貫通させる場合も粘土の固さに注意してへらを使いながらさせる）（構想）</li> </ul>
<p>まとめ （10分）</p>	<p>お互いの作品の鑑賞 （作業仮説3） 片付け</p>	<p>お互いの作品のよさの再発見をする（鑑賞能力） ビニールに包んで保管</p>

*まとめ (時間外)	展示コーナーを設け、感想などのコメントを添付したり、意見箱をおくなどして鑑賞や評価の「場」の工夫を図る。
---------------	--

(5) 評価

- ・作品制作することによって作品の構想ができたか(作業仮説1)
- ・土に触れ、その感触を確かめながら、それを基に、形、構成やテクニクの活用など豊かに構想できたか(発想・構想)(作業仮説1)
- ・友達の作品を評価したり、自分の表現を振り返ったりできたか(作業仮説3)

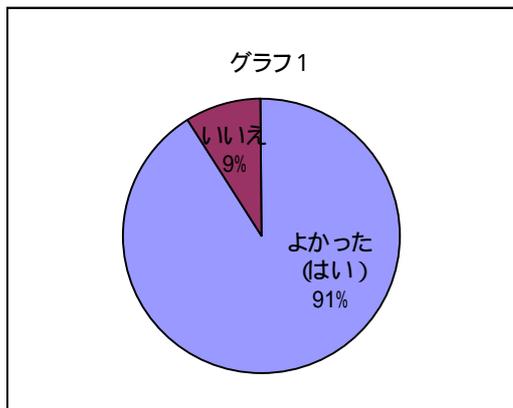
， 研究の考察

1 仮説の検証

(1) 作業仮説1の検証

作品の選択の場において、生徒の興味関心が高い題材を設定し、自分の造りたい作品を選択させれば、作品に愛着を持ち、制作に意欲的に取り組むであろう。

「作品選択したことは、良かったですか。」



生徒の感想

・初めて自分で作って、焼いていい経験ができたなあと思いました。  
 ・今度は、「うたくち」じゃなく、土鈴やお面を作りたい。  
 ・もっといろいろなものをつくりたい

考 察

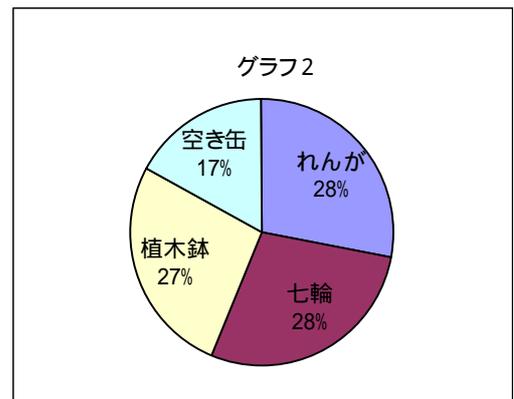
作品選択をして良かったという生徒が91%いる。「もっといろいろなものも作りたい」という感想も多く、生徒は意欲的に実習に取

り組んだ。

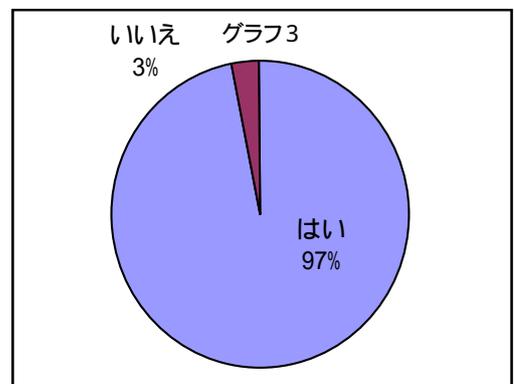
(2) 作業仮説2の検証

身近にある空き缶や素焼き鉢、七輪などを利用した手軽な焼成方法で焼成を行わせれば、生徒は焼き物を身近に感じ興味関心が高まるであろう。

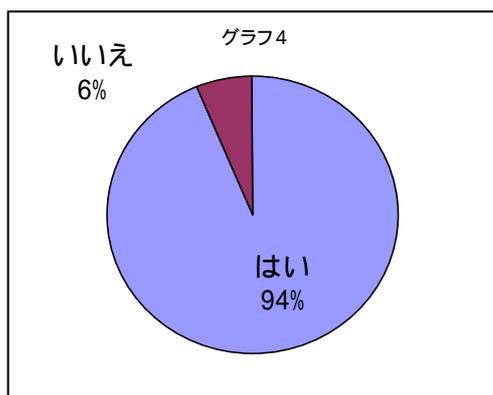
焼成方法は何を選択しましたか。



焼成したことは良かったですか。



又，焼成選択をして焼き物をやってみたいですか。



### 生徒の感想

- ・自分で作ったものが，焼いた後形が変わったりするのがおもしろかった。
- ・焼き方にもいろいろなものがあることが初めて分かりました。
- ・作るのが楽しかったし，焼くのも身近なものでできておもしろかった。
- ・粘土で形を作るまでは大変だったけど，焼くのがとても楽しかった。
- ・今度は，他の焼き方もためしてみたいくなった。

### 考 察

焼成選択をして「やきもの」をやってみたいという生徒が 94 %と大多数を占めている。

「楽しく授業に参加することができた」「他の焼成窯でやいてみたい」等，身近にあるものを利用し自分で焼成したことは，「やきもの」に対する生徒の興味関心を高めたとと言える。

### (3) 作業仮説3の検証

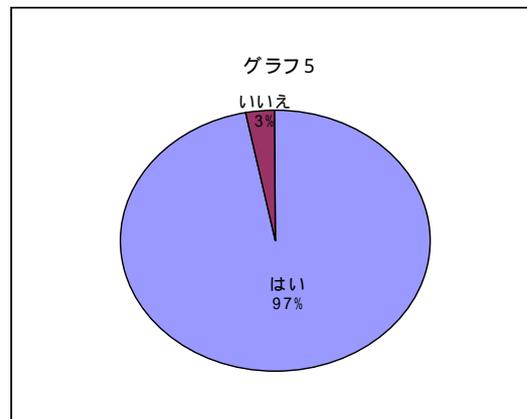
実習において，「制作の手引き」や「ワークシート」を活用し自分達で実習を進められるような支援を行えば，生徒は意欲的に取り組むであろう。

生徒は，自主的に実習を進めていたが，班の中で「話し合い」や「教え合い」ながら進めていたため，制作の手引きやワークシート

の手だてが有効かどうかの検証ができなかった。

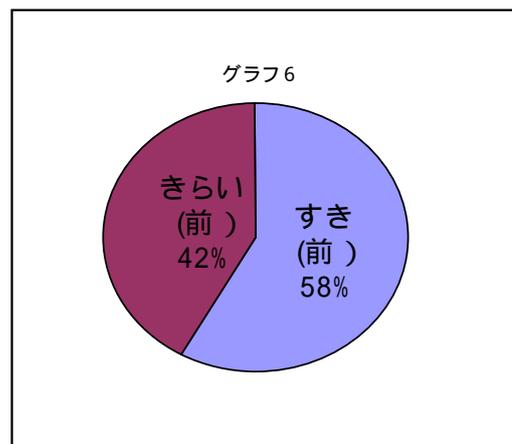
### 2 研究テーマの検証

今回のような「やきもの」の授業は楽しかったですか？

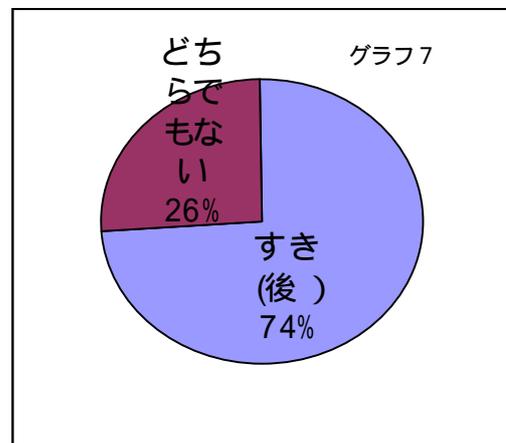


美術の授業は好きですか？

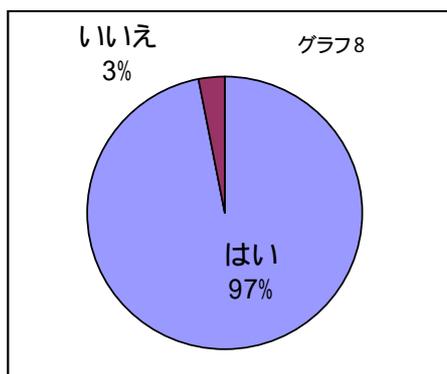
授業前



授業後



このような授業を又、やってみたいですか？



#### 生徒の感想

自分ではじめから作れたので楽しかった。  
初めて、自分で焼き物を焼いてとてもやり  
がいがあっておもしろかった。

#### 考察

すきと答えた生徒が 58 %から 74 %に増えた。

きらいとこたえた生徒が 42 %から 0 に減った。

97 %の生徒が、またこのような授業をやってみたいと答えた。

#### 成果と課題

##### 1 成果

作品選択することによって楽しく活動することができた。

高額な電気窯がなくても、身近にあるものを使って焼成することによって、興味関心がもてた。

##### 2 課題

系統だてた作品制作の3カ年計画

共同作品制作

ワークシートの活用の検証

安全管理

おわりに

「生徒が美術の授業をもっと意欲的に楽しく活動するためには」というテーマで6ヶ月間、研究

に取り組んできました。試行錯誤の中、スタートした研究でしたが授業を通して、子どもたちから「もっとやってみたい」という興味関心がわき、意欲的に取り組み嬉しく思っています。この研究での成果と課題を現場に持ち帰り、さらに研究を進めていきたいと思えます。

研修期間中、ご指導して下さいました沖縄県立教育センターの池原盛浩指導主事、本研究所の大城淳男所長、當間正和係長、山里昌樹指導主事はじめ、饒平名事務主事、武本図書館司書へ心から感謝申し上げます。そして、快く送り出し励まして下さった宮城盛夫校長、同僚の先生方へ感謝申し上げます。本当に有難うございました。共に研究を深めあい、支え合った仲間達との出会いも私にとって忘れられないものとなりました。

#### 主な引用・参考文献

国立教育政策研究所『評価規準のための作成，  
評価方法の工夫改善のための参考資料(中学校)  
評価規準，評価方法等の研究開発(報告)』  
教育課程研究センター 平成14年2月  
亀井浩明・佐野金伍・市川哲男『観点別評価の  
実際{美術編}』教育出版株式会社 1994年4  
月

北尾倫彦・生江洋一『中学校美術 観点別学  
習状況の評価基準評』株式会社 図書文化社  
1994年11月15

日

相田盛二『小学校図画工作指導技術シリーズ2  
基礎的技法と表現の工夫』明治図書出版株  
式会社 1987年11月

村木朝司『実践造形教育大系 土の工作工芸』  
開隆堂 1984年3月25日

『美術 感じる心で 教師用指導書 指導編』  
日本文教出版株式会社 平成14年3月5日

北尾倫彦・生江洋一『新 観点別学習状況の評  
価基準 中学校美術』株式会社 図書文化社

